

令和7年度 府中市立府中第四小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉に対する関心をもち、促音や長音などを正確に書き表すことに課題がある。 ・助詞の「は・を・へ」を適切に使うことを定着させる。 ・音読の際、言葉のまとまりで意味を捉え、書いてあることを正しく理解することに苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・促音や長音、助詞などの学習を通して正しい表現を指導する。【表現】 ・学級で音読の時間を確保し、くり返し練習させる。【表現】 ・文章の中から言葉のまとまりを見つける活動を継続的に行い、文章を読む時には言葉のまとまりを意識して探せるようにする。【発見】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・減法の性質を正確にとらえることに課題がある。 ・文章問題の場面をイメージしづらい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のつまずきに合わせて具体物や半具体物を活用し、主体的に学習できるようにする。【発見、表現】 ・問題場面の絵を描かせることで、問題場面をより具体的に理解させる。個人作業だけでなく、ペアや、全体で共有する活動も行う。【対話・表現】 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動をする中で、課題を発見したりまとめたりすることが難しい場面が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「見付ける」「比べる」「たどる」などの視点を与え、自らの気づきを振り返ることができるようにする。【発見・表現】 ・観察カードを振り返りながら、自分の言葉でまとめられるようにする。【決定・表現】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れを感じ取って、リズム打ちや、身体表現をすることに課題がある。 ・曲想を感じ取ったり、自分の考えを表現したりすることに苦手意識がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なリズム譜から順に指導を繰り返し、拍を感じとれるようにしていく。【発見】 ・全体から個へ、個から全体へ、身体表現する場面を繰り返し行っていく。【対話・表現】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具の特性を考え、それらを上手に活用できない場面がある。 ・材料や用具から作品のアイデアを考えることに課題がある。 ・教科書や見本を参考に発想することに難しさを感じる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の特性や用具の基本的な使い方などを繰り返し指導し、材料や用具の扱い方に慣れるようにする。【発見】 ・活動内容の予告や作品の例示、児童の興味関心に合わせた題材設定を行う。【決定】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に対する意欲に個人差が見られる。 ・出来ている場面もあるが、周りに配慮したり、安全に気を付けたりしながら友達と協力して活動することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な動きを取り入れた体づくり運動を取り組み、ゲーム要素やチャレンジ要素を取り入れ、運動に挑戦する意欲を高める。【決定】 ・幅広い運動遊びに取り組ませる。【発見】 ・活動内容を提示し、授業の見通しをもたせる。【発見・決定】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第四小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・助詞「は・を・へ」、促音や拗音、カタカタ等の基本的な言語事項の定着が必要である。 ・文章を書く技能について個人差がある。句読点を使い短文で整理して書くことや会話や気持ちなどを詳しく書くことに課題が見られる。 ・長文や複数の文になると、問いに対して正しく読み取れない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを使いながら、発表やスピーチ、作文や日記等、話したり書いたりする経験を積む。【表現】 ・書いたものを自分や友達と読んだり、推敲したりする機会を設ける。【発見・決定】 ・書く場面では 児童にとって身近な題材を取り上げ、取材活動を段階的に指導する。【発見・決定】 ・説明文や物語文の指導では身に付けたい力を明確にして児童に提示する。【発見】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・たし算の繰り上がりやひき算の繰り下がり計算の仕方の定着が課題。 ・既習事項を活用して答えを導き出す問題解決の力に差がある。 ・長さの計測や時間の読み取りが難しく、生活場面でもつまずきが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算問題に取り組み、計算力の習熟及び向上を図る。【発見】 ・問題解決学習を進める際には、具体的な手立てや方法（言葉や文章、式、絵や図、グラフや表など）を例示する。【表現】 ・長さや時間は普段の生活と結びつけて確認したり、定期的に問題に取り組んだりする。【発見】 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・体験や活動に意欲的に取り組んでいるが、気付きの視点や表現力に差がある。 ・観察などの取り組みに対して、観点が少なかったり、内容が単一的になったりすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察の前には「大きさ・長さ・形・匂い・手ざわり」など視点を与え、観察カード等に具体的に表現することができるようにする。【発見・表現】 ・「比べること」や「例えること」ができるように、活動前にやり方を示し、焦点化や言語化へつなげる。【表現】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌う姿勢がつくることが難しい児童や一人で歌うことに抵抗のある児童がいる。 ・鍵盤ハーモニカでは、長いフレーズの息づかいを苦手とする児童が多い。 ・異なる音を重ねた時に、自分の演奏だけに精一杯になる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌う前に姿勢を整える声掛けを十分に行う。少人数か1人で歌う時間を多くとり、環境を整える。【発見・対話】 ・ドレミ唱や息づかいの練習を工夫し、表現力の幅を広げる。【表現】 ・聞くだけに集中する時間も確保して耳を慣らし、音の重なり楽しさを味わわせる。【発見】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に意欲的な児童が多いが、材料や用具の基本的な扱い方について確認し、十分に慣れる必要がある。 ・発想や構想に支援が必要な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具の基本的な使い方について繰り返し指導するとともに、感覚や技能を働かせる活動を通して、材料や用具の扱い方に十分慣れるようにする。【発見】 ・活動の見通しの共有、提示する例や発問の工夫を行うことで、発想や構想を促す。【発見・表現】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が好きな児童が多い反面、安全面や友達との協同的な活動において、指導支援が必要な児童がいる。 ・基本的な動き（コース内を真っ直ぐ走る・ボールを真っ直ぐ投げる・前転・後転・けのびなど）や体力面に課題がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のはじめに、安全面の約束や活動時のマナーを継続的に確認し、良いところや改善点を児童と共有する。【発見・決定】 ・様々な動きを取り入れた体づくり運動の時間を設ける。運動技能や体力の向上を図り、運動する楽しさを味わわせる。【発見】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第四小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・テストを含め、漢字の書きの定着度に個人差がある。また、学習した漢字を日常生活の中で適切に使うことに課題がある。 ・書くことでは、伝えたいことを順序立てて文章に書き表すことに課題がある。 ・話すことでは、自分の思いを相手に分かりやすく伝えることに課題がある。また、相手の意見に対して反応したり自分の意見をもったりすることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く場面で活用を意識させることで、既習漢字の定着を図る。【発見・決定】 ・語彙、取材活動、内容の組み立て、つなぎ言葉、例文の提示など、個や集団の課題に焦点化した手立てを行う。【発見】 ・ペアや小集団での話し合いの場を設け、安心して自分の意見を言えるようにする。【対話】 ・友達の意見を聞く前と聞いた後で、考えたことの変化を振り返る機会を設ける。【対話・表現】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の際、自分の考えをノートに書き出すことやまとめることが課題である。 ・問題文の読み取りができず、間違えた回答をしている児童が見られる。 ・全体指導では理解していても、一人になると問題が解けなくなる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の仕方や大事な言葉は単元を通して黒板に掲示することで、既習事項を思い出させ、考えるヒントを与えるようにする。【決定】 ・文章問題では使う数字や聞かれていることを確認してから問題に取り組む。【発見】 ・習熟度別のコースに応じて計算の順序を確かめたり、数値を変更したりしながら指導する。【発見・決定】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察に意欲的に取り組む児童が多いが、実験の予想の理由や考察などノートに書き表すのが難しい児童がいる。 ・テストになると、何を問われているのかを理解できない児童や、どのように回答するべきなのか理解が難しい児童が見られる。 ・学習した知識・技能を生活経験と結び付けて考える力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察の際に具体的な観察の観点を提示する。【決定】 ・友達と観察カードの内容や自分の考えを共有する時間を取り、様々な表現方法に触れ、自分の考えを広げられるようにする。【対話】 ・生活の身近な事象や他教科との関連を意識した指導をし、学習したことと生活経験を結び付ける。【発見】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から情報を正しく取り出したり、取り出した情報を比較・関連付けたりすることが難しい。また、資料から読み取ったことをもとに、自分の意見をもつことを苦手とする児童も多い。 ・地図記号や八方位等の知識が定着していないため、地図を読むことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科での学習を想起しながら、自分の経験や既習事項と結び付けて主体的に考えられるようにする。また、比較・関連付けの活動では「似ているところ」、「違うところ」など、観点を提示する。【決定】 ・地図や写真から必要な事柄を読み取る活動の時間を増やす。【発見・表現】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽に対して知覚・感受したことを表す場面において、気付いたことや感じたことを適切な言葉にすることができず、特定の単語や平易な単語に偏る児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽的な見方や考え方についての視覚教材の活用場面を増やし、児童が様々な、かつ適切な言葉で表せるようにしていく。【発見・表現】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具の基本的な扱い方が身についていない児童がいる。材料や用具の扱い方について確認し、定着を図る必要がある。 ・材料の色や形を基に自分のイメージをもち、イメージを広げることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具の基本的な使い方の指導を繰り返すとともに、材料や用具の扱い方に十分に慣れるように活動内容や場を設定する。【発見・決定】 ・イメージを広げるために、材料を見たり触ったりする時間を十分に確保する。イメージをもつことに課題のある児童には、題材に選択肢を作り、イメージを広げられるようにする。【表現】 		

令和7年度 府中市立府中第四小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

体育	<ul style="list-style-type: none"> ・チームスポーツになると、得意な児童だけが活躍してしまうことがある。 ・自分の課題を見つけ、解決しようとする意欲が低い。 ・勝ち負けや技の出来栄えなど、結果のみに着目してしまい、その過程に目が向かない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム内での役割分担や作戦を練る時間を設ける。【対話】 ・ICTを活用し、自分の課題を可視化することで、意欲を高めたり、友達と高め合ったりしようとする場面を多く設ける。 【発見・対話】 ・基礎・基本となる運動を取り入れたり、技のポイントを提示したりすることで、活動の過程に着目しながら振り返りを行えるようにする。【表現】 		
----	--	--	--	--

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第四小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや思いを言葉で伝えたり、文章で表現したりすることに課題がある。 ・書くことにおいて個人差が大きく、伝えたいことを順序立てて文章に書き表すことに課題がある。 ・漢字の学習において小テストではよい結果であっても、まとめのテストになると、定着していない児童が多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団での話し合い活動を設定し、友達の書いた文章に触れる機会を設ける。 【対話・決定】 ・例文を示したり、つなぎ言葉を選択したりするなど、個の課題に合わせた手立てを行う。 【決定・表現】 ・新出漢字の学習後に、生活の中で生かせる漢字練習に取り組む。プリントやノートなどで文章を書く際には、既習の漢字を使うことを繰り返し指導する。 【表現】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパスや分度器を上手く使えず、正確に作図できない児童が多い。 ・桁の大きいわり算の筆算ができなかったり、時間がかかったりする児童が多い。 ・自分の考えを表現することが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパスや分度器の基本的な使い方を指導する。また、コンパスや分度器を使った発展的な問題を定期的に行う。 【発見】 ・苦手な個所を振り返りながら四則計算の復習を充実させ、基礎的な計算力を高める。 【発見・決定】 ・問題の解き方を指導し、児童同士の考えを共有し合い、自分なりの方法で表現できるようにする。 【表現】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察に意欲的に取り組む児童が多いが、ノートに気付いたことや自分の考えたことを適切に表現できない児童が見られる。 ・ガラスなど壊れやすい実験器具の特性と安全な扱い方が結びつかず、壊すことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察では具体的な観察の観点を提示する。友達と観察カードの内容や自分の考えを共有する時間を取り、様々な表現方法や意見に触れ、自分の考えを広げられるようにする。 【対話・表現】 ・引き続き安全面について直前に確認するとともに、破損する事例を実際に見せたり体験させたりして素材の特性を知り、安全に対する意識を高める。 【発見】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を正確に読み取ったり、疑問や問いを導き出したりすることに課題がある。 ・まとめの学習において、社会科見学等、パンフレットや各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べ、内容や自分の考えをまとめることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・折れ線グラフと棒グラフなど、複数のグラフが混在している資料などの読み取り方を丁寧に確認したり、必要な情報を読み取ったりする時間を設ける。 【発見・決定】 ・自分の考えをノートにまとめたり、国語で学習した新聞を活用したりすることで、まとめることに慣れていく。 【表現】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱や器楽などの表現活動において、知覚した曲の特徴から表現の工夫を考えることに繋がらない。 ・学習目標に対して自ら取り組むことや、粘り強く練習することが難しい児童がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して、知覚した音楽的要素をもとに考える活動を増やしていく。併せて、児童が知覚できるような掲示の仕方に変えていく。 【発見】 ・見通しをもち目標を維持できるよう、視覚的にわかりやすい資料をもとに説明をする。 【発見】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・学びに向かう力と創造的な技能について、個別の支援が必要な児童が見られる。制作進度に個人差が大きい。 ・材料や用具の基本的な扱い方が身につけていない児童がいる。材料や用具の扱い方について確認し、十分に慣れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作に見通しをもてるよう言語的、視覚的な説明、材料の提示などを行う。毎回の授業ではスモールステップで少しずつ達成できるように課題を工夫する。 【発見・決定】 ・支援が必要な児童に対して、個別に具体的な指示を出し、スムーズに取り組めるようにする。 【決定】 		

令和7年度 府中市立府中第四小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の運動は一人一人がよく行っているが、グループ競技になると得意な児童だけが活躍してしまうことがある。 ・活動には意欲的に取り組んでいるが、自分の課題を見つけて練習に取り組むことに個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで取り組む活動を多く取り入れ、チーム内での役割分担や作戦を練る時間を設ける。【対話】 ・I C Tを活用し、自分の課題を可視化することで、意欲を高めたり、友達と高め合ったりしようとする場面を多く設ける。【対話・表現】 		
-----------	---	---	--	--

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第四小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力や表現力が十分身に付いていないことから、自分の考えや筆者の考えなど書くことに苦手意識がある。 ・文章を正確に読み取る力に課題がある。 ・自分の考えを明確にして相手に伝えたり、相手の考えから自分の考えを広げたりまとめたりする力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章のモデルを提示し、よい文章の書き方を知る。また、思考ツールや構成メモを活用し、日頃から書くことに慣れさせる。目的に応じて、語彙集を活用し、語彙を増やす。【表現】 ・読み取る時のポイントや方法など読み取り方の指導を丁寧に行う。【発見】 ・ペア・グループで伝え合う活動を適宜取り入れる。また、構成を考えて話すことや要点を押さえて聞き取ることを意識させるために、交流の中でのメモの取り方を指導する。【対話】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・公式や計算の仕方に至るまでの筋道を考える力に個人差がある。 ・自分の考えを式や図、言葉を用いて表現することを苦手としている児童が多い。 ・繰り返しの学習を苦手としているため、学習したことが定着しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・式や図を用いながら数量の関係や問題場面を正しく理解させることで、公式や計算の仕方に至るまでの筋道を理解できるようにする。【発見】 ・式や図、言葉を用いた方法を指導し、それらを使って友達同士教え合う活動を取り入れる。【対話・表現】 ・学習の振り返りを行い、繰り返し学習することの必要性を感じられるようにする。【決定】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察の目的を理解していないまま、学習に臨んでいることがある。 ・実験や観察には意欲的に取り組むが、気付いたことや分かったことを記録することに個人差がある。 ・実験や観察から気づいたことや分かったことから個人で学習のまとめをすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な事象から課題を設定し、児童に主体的にめあてを立てさせる。【発見】 ・表や図など記録の取り方を指導するとともに、記録を基にグループでの話し合活動を、児童相互で高め合える時間を設定する。【対話・表現】 ・児童の言葉で学習のまとめをする。また、振り返りの時間を適宜設けることで自分の言葉で学習を振り返られるようにする。【決定】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・国土の位置や構成を方位や位置関係、範囲を資料から必要な情報を読み取って表現することが苦手な児童が多い。 ・課題の解決に向けて、自分の考えを言葉で表現することに個人差がある。 ・調べたことやまとめたことについて根拠や理由を明確にして説明することに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な立場から社会的な事象を指導し、物事を多面的に考えられるようにする。【発見】 ・資料の読み取り方を伝え、読み取って考えたことを言葉で書く時間を設ける。【表現】 ・事前に書き方のポイントを示したり、学習課題に対する説明を例示したりする。【表現】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽に対して知覚・感受したことを表す場面において、感じたことを適切な言葉にすることができず、特定の単語や平易な単語に偏る児童が半数程度見られる。 ・個々に取り組む活動において、学習目標や学習内容から大きく逸れる児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽的な見方や考え方についての視覚教材の活用場面を増やし、児童が様々な、かつ適切な言葉で表せるようにしていく。【表現】 ・児童が活動に対して見通しをもち、目標を維持できるよう、ICTを活用しながら視覚的に分かりやすい資料とともに説明する。【発見・決定】 		

令和7年度 府中市立府中第四小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して粘り強く取り組むことができない児童が多い。また、制作進度に個人差が大きい。 ・学習に向かう力について、個別の支援が必要な児童が見られる。また電動系のこぎりやカッターナイフなどの道具の扱いや技能面での個人差が大きく、制作に時間がかかる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作に見通しをもてるよう言語的、視覚的にわかりやすい説明、材料の提示などの手立てをつくる。毎回の授業ではスモールステップで少しずつ達成できるように課題を工夫し、授業の最後に進度を確認する。【発見・決定・表現】 ・児童の興味関心に沿った活動を設定したり、活動途中に互いの良いところを伝え合ったりするなどして、学びの意欲の向上につなげる。技能面は繰り返し道具や材料を使って慣れるような題材の工夫をし、少しずつできる課題を設定する。【対話・表現】 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・生活経験等の違いによる知識や技能の差があり、作品作りの進度に大きな差がある。計画的に終わらせることができない児童が多い。 ・学習内容を振り返ったり、課題を見つけたりしたことを文章に表現することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品作りの計画を視覚的に示したり、見本を手にとれる形で用意したりして、分かりやすく提示する。【発見】 ・鑑賞の時間や全体での振り返りの時間を多く設け、様々な表現の仕方を伝えていく。【対話】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組む児童が多いが、取り組む運動内容に偏りが出てしまう。 ・目的に応じて活動を工夫することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に取り組む姿勢を児童に促し、領域に応じて技能習得の場を設定する。それぞれに適した練習内容を選択できるようにする。【発見・対話】 ・授業前に取り組む競技や意識して取り組むポイントを確認して、目的を明確にさせる。振り返りカードを活用して活動を振り返る時間を設定する。【表現】 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が目的意識をもって主体的に取り組むことに課題がある。 ・既習事項を複合的に使用して自分の考えを表現することが難しい。 ・四線を使って書くことに慣れていないため、正しく書くことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のねらいを設定し、児童が実践的な場面を想像しながら学習できるようにする。【発見】 ・単元のねらいを明確にすることで、既習事項を複合的に使用しながら話し合い活動ができるようにする。【対話・表現】 ・ワークシートを使用し、交流したことを書く学習を増やしていく。【表現】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第四小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・序論、本論、結論といった文章全体の構成を考えることはできているが、目的や意図に応じた分かりやすい文章を書くことに課題が見られる。また、文章のまとまりごとに段落を分けて整理することや、接続語を正しく用いて筋道の通った文章を書くことにも課題がある。 ・説明文や物語文の読み取りでは、内容を把握し、知識や経験と結び付けて読むことができてきているが、文章全体の構成を捉え、要旨や筆者の主張を把握して読み、自分の考えを表現することには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことの学習では目的や意図に応じて書いたり、事実と感想、意見などを区別して書いたりすることを指導する。また、内容の中心を明確にすることで文章のまとまりを明らかにし、筋道の通った文章になるように指導する。【決定・表現】 ・説明文の指導において、内容理解に偏重するのではなく、文章の構造、語句と語句のつながりなど、文章を読み解く論理の理解に重点を置いて指導する。そのために、指導計画を立てるときには、各単元、1単位の時間のねらいを焦点化する。【発見】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文の意味を理解し、正しく立式することに課題のある児童が多く、かけられる数とかける数、わられる数とわる数が反対になる。 ・公式だけを覚えているため、時間が経つと公式を忘れたり、他の公式と混同したりしてしまい、公式の意味理解まで至っていない。 ・課題に対して、多様な考え方のできる児童が少なく、表現することが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数字の意味、数と数の関係を図や表、数直線等で表すことを指導し、問題文と式を関連付けて数の関係を捉える活動を繰り返す。【発見】 ・公式をつくる過程を大切にし、順序立てて考え、答えを導けるようにし、理解の定着を図る。【発見】 ・式や表や図、言葉等の様々な表現方法から自分に合った表現方法を選択し、お互いに発表し合い、考えの共有を図る。【表現】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・問題に対する予想や考えを友達と相談してまとめていくことはできるが、自分で予想や考えをまとめ、ノートに表現できない児童が見られる。 ・ガラスや陶磁器など、衝撃や温度差による破損のしやすさが分からず、壊すことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を理解しやすく提示し、個人で考えをまとめる時間を設ける。その後、友達とノートの内容や自分の考えを共有する時間を取り、様々な表現方法や意見に触れ、自分の考えを広げられるようにする。【対話・表現】 ・引き続き安全面について直前に確認するとともに、破損する事例を実際に見せたり体験させたりして素材の特性を知り、安全に対する意識を高める。【発見】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・政治の仕組みや日本国憲法の理念、歴史的な事象についての知識・技能の取得率は高いが、問題に対し、自分なりの考えをまとめたり、友達の考えから自分の考えを広げたり深めたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な事象を政治に関わる視点に着目して捉え、国民の生活との関連付けを考えることで、学習を深めることができるようにする。【発見】 ・関連のある複数の資料を提示し、比較・関連付けて考察していく学習場面を設けていく。また、少人数や全体で検討し、共有していく活動も重視していく。【対話・表現】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽に対して知覚・感受したことを表す場面において、感じたことを適切な言葉にすることができず、特定の単語や平易な単語に偏る児童がまだ見られる。 ・合奏などでグループ活動に取り組む際、学習目標や学習内容から大きく逸れる児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽的な見方や考え方についての視覚教材の活用場面を増やし、児童が様々な、かつ適切な言葉で表せるようにしていく。【表現】 ・児童が活動に対して見通しをもち、目標を維持できるよう、ICTを活用しながら視覚的に分かりやすい資料とともに説明する。【発見・決定】 		

令和7年度 府中市立府中第四小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの活動を言語化して学びにつなげることに課題がある。 ・学習に向かう力について、個別の支援が必要な児童が見られる。 ・技能面での個人差が大きく、時間内に完成しない児童がいる。また、見通しをもって計画的に制作に取り組むことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に合わせた造形的な視点の言葉を提示し、自分の活動や鑑賞した内容を言語化しやすくする。【発見・表現】 ・児童の興味・関心に沿った題材を設定し、活動途中で互いの良いところを伝え合い、意欲の向上につなげる。【対話】 ・授業の毎回のめあてが達成できるよう、ワークシートなどで計画を立て、毎回の授業で確認する。【発見】 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・調理や裁縫以外の家庭科学習に対する関心が低いため、主体的に取り組めない児童が見られる。 ・調理や裁縫など関心をもって取り組む児童が多いが、個人差が大きいため一斉指導が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に活動できるよう、体験的な活動を多く取り入れる。【発見・表現】 ・見通しがもてるよう作品作りの計画を視覚的に示したり、手に取れる形で見本を用意したりする。【発見・決定】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を適切に振り返ることが難しく、目的に応じて活動を工夫することができない。 ・体育科の活動と健康・安全が繋がらず、普段の生活に生かすことができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に合わせて複数の練習場所や練習方法を提示し、自分に適したものを選択できるようにする。【発見・決定】 ・休み時間の遊びと関連付けながら、体育科の活動が普段の生活に生かせるようにする。【発見】 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語を話すことには慣れてきているが、既習事項を複合的に使用して自分の気持ちや考えを表現することが難しい。 ・四線を使って書くことに慣れてきている。書くことを継続的に指導し、より正確に書けるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットごとの学習に加えて、それまでの既習事項を踏まえた交流の仕方を指導する。【対話】 ・ワークシートを使用し、交流したことを書く学習を継続する。【表現】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。